

令和2年度N I E 実践報告書

鹿児島県立楠隼高等学校

1. はじめに

本校は平成27年4月に開校した。当時の中学1期生が高校3年生となり、開校6年目となる今年度は、学校としても1つの節目を迎える。全寮制の本校は、校内はもちろん寮内においても携帯電話・スマートフォンの持ち込みが禁止されており、日頃から新聞は生徒たちの重要な情報源となっている。

寮と各教室にはそれぞれ2紙（朝日新聞・南日本新聞）が配布される。図書館には上記の2紙に加え、読売新聞、日本経済新聞、毎日新聞が置かれ、中高生新聞（朝日、読売）もあり、昼休みを中心に生徒が集まっている。寮内やクラスでも新聞を読む生徒が多く、社会への興味関心が高い。

NIE コーナー



図書館の新聞コーナー



2. 実践計画

(1) 育成を目指す資質・能力

- ① 記事を作成するにあたって必要とされる情報を検証する力。
- ② 複数の資料を活用し、課題に関連する情報を編集し、表現する力。
- ③ 課題を把握し、解決に向けての方策を探究する態度。
- ④ 新聞の読み比べによる批判的思考力。

(2) 年間購読計画

以下の5紙を4ヶ月購読し、新聞は高校2・3年生のフロアにストックしていった。

	4月	5月	6月	7月
朝日新聞	1	1	1	1
毎日新聞	1	1	1	1
読売新聞	1	1	1	1
日本経済新聞	1	1	1	1
南日本新聞	1	1	1	1

今年度本校は、緊急事態宣言に伴う臨時休業が5月の連休明けまで続いた。その後、県外生は2週間の健康観察期間を経て帰寮したため、入学式・始業式が6月1日であった。4月、5月分の新聞は地歴講義室にストックしていったが、誰も読まない新聞が積み重なっていく様子は、寂しいものであった。学校が再開されてからは授業等で活用していった。以下に今年度の実践例を示す。

3. 今年度の取り組み

(1) 教科「地理」での取り組み

過去の記事を分野ごとに検索できるため、授業で扱いやすい「朝日 Teachers'メール」のサイトから関連記事を授業プリントの中で活用することが多い。

次のページの「資料1」は、環境問題の単元で扱った授業プリントの例である。中央アジアの「アラル海」での環境問題の記事を読み、問いに答える形となっている。

まずは記事を読み、必要な情報、求められている情報を収集、編集する作業を行った。この段階では記事の内容を十分に読み取り、記述できる生徒が多かったが、(4)の環境問題解決に向けての考察では、時間内に記述を終える生徒は少なかった。しかしグループでの活動を通し、それぞれ考えを深める様子がみられた。既習事項を生かすためにも、今回は他地域との比較をしながら考察させたい。また、自分が設定した仮説を検証するためにはどのような視点や資料が必要か考えることで、新聞記事を読む際の批判的思考力につなげていきたい。

生徒の感想の中には、「現代社会以外でも新聞の中に地理を探していきたい」、「普段から新聞で地理的な内容は見つけやすいが、これからも意識的に読みたい」や、「勉強したこととの関連を探していきたい」というようなものもあり、印象的だった。

「資料 1」

「資料 2」

4節 環境問題 ① 世界の環境問題

次の新聞記事（2018/8/12朝日新聞）を読み、(1)～(4)をまとめよう。

地球温暖化 枯れる湖 追われる民

中央アジア「アラル海」 湖底から砂嵐 移住数万人に

漁業大打撃 復活へ長い道

旧ソ連 無謀な水利用のツケ

1 アラル海の周辺では、どのような環境問題が起こっているか。

2 1の原因は何か。

3 1の対策として、どのような試みを行っているか。

4 アラル海周辺における「持続可能な開発」とは、どのようなことが考えられるか。

高校1年 肝付学
～新聞記事を読み比べよう～

1年()組()番 氏名()

- 各新聞の1面を比較してみよう。
- ある1つの出来事に注目して、その出来事が各新聞社でどのように扱われているか、比較しよう。
- その他、新聞記事の読み比べをしてみて気づいたことを書こう。
- 今後、どのように新聞を活用していきたいか、情報を集めていきたいか、感じたことを書こう。
- 新聞記事の読み比べをしてみた感想を自由に書こう。

(2) 「肝付学」における取り組み

本校では、総合的な探究の時間に「肝付学」と「宇宙学」を設定している。

地域の課題について主体的かつ共同的に探究する「肝付学」と、幅広く知識を吸収しながら調査分析し、科学的思考力を養う「宇宙学」とに分けているが、どちらも自らが立てた問いに対して、自分の考えをまとめていく探究活動である。

肝付学では、次の5つの能力を育成することを目標としている。

- ①課題設定力、②情報収集力、③整理・分析力、④プレゼンテーション能力、⑤コミュニケーション能力

教科の枠にとらわれず、自分の興味関心に基づいて、問題解決策を追求するものがあり、自分自身を見つめたり、自分と社会との関わりを考えたり機会にしている。

1年次では、地元である肝付町を舞台に、ミニフィールドワークなどを通して、自ら課題を見つけることを目標としている。

2年次では、設定した課題に対し、解決の提言を目指し、論文を作成し、発表することが目標である。

1年次に行った、新聞を活用した「肝付学」のワークシートが上の「資料2」である。2年次に行う論文作成に向け、新聞記事から課題やその解決に向けた具体例など

を見つけるため、NIE コーナーにストックしてあった過去の新聞記事を複数紙読み比べ、気づいたことをまとめる、という内容であった。

生徒のワークシートから、一部抜粋したものが下記である。

「たくさんある情報から自分にとって必要な情報を選ぶ作業が難しかった」

「新聞社によって、扱う分量・記事の大きさが異なり、おもしろかった」

「複数紙を読み、自分の考えを持てるようになりたい」

「目につきやすい記事だけでなく、必要な情報を選べるようにしたい」

「1つの情報を鵜呑みせず、多様な手段で情報を得て、自分の考えにしたい」

(3) 小論文指導における取り組み

高校2年生の小論文指導では、導入の段階で新聞記事を活用した。予め提示された複数の課題文から1つを選択し、自分なりの主張を論述していく過程で、新聞記事から具体例を探したり、新聞記事がどのような方法でその主張に説得力をもたせているかを考察したりした。

(4) 進路指導部の取り組み

高校生のフロアにある掲示板に、社会問題や生徒の進路意識を高める内容の記事を掲示している。3年生の教室に近いところに設置しているが、大学での研究内容に則した話題から、進路選択につながる話題など、幅広く記事を掲示しているため、1、2年生の関心も高く、立ち止まり目を通して生徒が多い。

事前学習メモ	
	2年()組()番 氏名()
① 選択する課題文の番号	<input type="text"/>
② 筆者の意見に対して、どちらの立場で書くか。(どちらかに○)	YES or NO <input type="text"/>
③ 自分が主張したいことの内容。	<input type="text"/>
④ ③の自分の主張をサポートしたり、裏付けたりするための具体例。(「いつ・どこで・誰が・なにを・どうして・どうなった」という成功例・失敗例・データ・数値など)	<input type="text"/>
⑤ 自分とは反対の意見への譲歩する内容。(確かに～、もちろん～)	<input type="text"/>

4. 来年度に向けて

実践2年目となった今年度は、実践者がこれまで行ってきた教科内での新聞記事の活用を継続し、さらに総合的な探究の時間「肝付学」での実践や、小論文指導においてもNIEを実践した。

寮やクラス、図書館など、新聞を多く手に取る機会のある本校において、ただ読むだけでなく、記事の背景や身近な事柄を結びつけ、自らの意見構築や課題発見につながる活動も少しずつ実践できた。他にも中学校の授業でも実践例があるが、これらを学校内、またはそれぞれの教科内で共有し、さらに多くの実践が深まることを来年度の目標としたい。